

仇教

繪本四季物語

後編

一

913.5

工

後編 1

喜怒可以勸善
哀樂可以懲惡

報仇繪本四季物語

大坂

三木書樓梓

家兄京傳が編せしあり

かた沼乃涉るる立ま行き様

ひめか赤人の眼城よるあを染

とらま 燭角の虚名 燭頭の微利

年々 ぬ彩編むこの巻 兎

斗の角かりど 汗城流して

葉の舛以争ひし頃
繪入讀本の秋なきけり
城喜毎尔茂てあふ文の林乃
草双糸の小花と奪ひ競ひ
ちり玉存雨入軒の玉水あふ
だき酒子小秋梓の敷花

すし船りちきしを時り流
りちき言・深深かひる心
うつやと死人の心たどる
こころ文化丑秋やうが浪花
小遊子とききそお侍泰文者
乃あきどあ舎ふ素き鬼卵子

新編に出してふれが叙は
ふりて燈つ子園をわたり友
振野亭が作せし春夏秋冬
といふ書の後編は作ら
たり垂る浪走人稲旗子
筆なりふれが鬼卵子が

鬼小金捧のよき持胆は
筆の長舞の巻終有宿
り好評は得々時鳴おど
繪入讀本乃志も操木の枝
紫茂子て書癖のまじりの
秋子つらるるや云爾

後編

文化三丑仲秋良夜

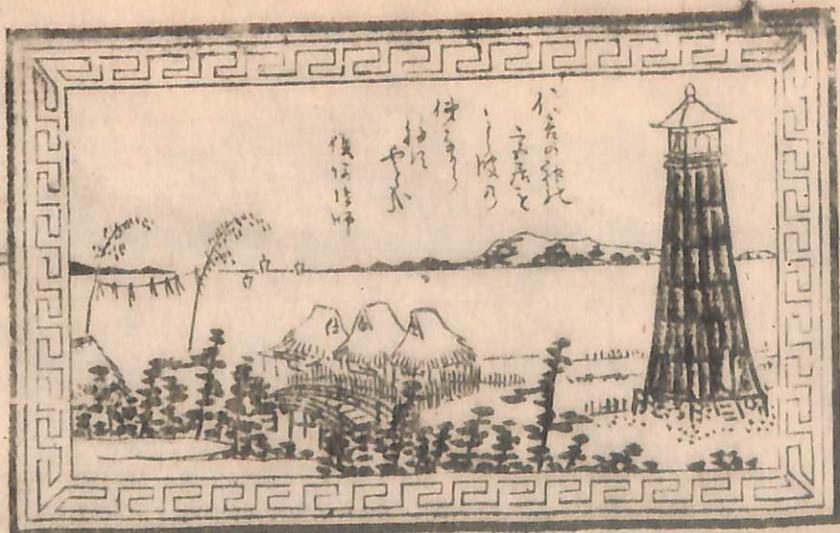
一月於子浪志之書舍

山東廣京山後



浪華^{なみの}富^{とみ}
志^{こころ}莫^な長^{なが}者^{もの}

良玉不彫
為世寶
靈根非種
自天成



百^{ひゃく}縁^{えん}長^{なが}者^{もの}
侍^{さむらい}女^{にょ}路^ぢ里^り

歌^{うた}鏡^{かがみ}夜^よ尿^{のり}
珠^{たま}完^{かん}轉^{てん}
舞^ま壩^ぼ春^{はる}席^{せき}
雪^{ゆき}朦^{もう}朧^{らう}



嵐山七三郎

勇敵萬人

如山之固

名蓋乾坤

似海之深



麻生川小左衛門

兩臂如勳刀之有力
餘靈轉於法華經



父之仇敵
弗兵載天
武氏姉妹
名譽皆傳

盤井



而施
惡貫盈滿
在一時待其
天之降罰豈

荒木勘十郎

阿耶賣



目録

第一之卷

高藤四良怒り盤井を害す
金澤の深窓南柯乃夏

○ 依保川内赤伊勢末宮

第二之卷

高藤四良再び盤井を害す
老狐盤井が厄難を救ふ

○ 老狐盤井とてかゝる

第三之卷

盤井めたる厄難を救ふ
老狐再び盤井を害す

○ 盤井奴が求む難く

第四之卷

高藤四良やめを要んと斗ふ
嵐山婿婿をとりこむ

○ 小たつ七三良小恥辱を蒙る

第五之卷

盤井の登免仇状報す
嵐山麻生川又婿を勧む

○ 諸里加賀登志漢を見知る

全部五卷大尾

報仇四季物語後編卷之一

遠州日阪住於浪花耶人亭 栗杖亭鬼卯著

東武慶士遊浪速客舎之日 山東京山 杖

第十一節

高藤四良怒り盤井を害す
金澤の深窓南柯の夏

かくて平塚高藤に命ハ盤井が花あめの手上にて付ひ
不思義の對面とへふうりなるが高藤に命付成改め
今又つゝ及ぬ事さぐりて某ハ大内義弘の
後継るり子細あつて好ま登をさすこの父武敏源

若夫を世帯系家の雑所にて二人の娘ありて其のも
 双子とて其さますを遠いねば姉妹かほよ妹は
 あやめし早女時やえ臣とさるもぶらこやうら
 七葉の時蓬倉形より子車の換金ななりなる橋
 二枝と信綱の平よ送る源をまうらハ花菱の結
 御身引出ものとして衣箱したるが去子細あつて望
 於成立返志ばらく蓬倉小瀬酒一時斎成何ぐ
 ころらにむらうねくおとに新あふり源をさふし
 ねらん。さうさうのるはささるをさるまふまふし

子細つづつしつとけくまをかうりたよへと尋ぬるり
 盤井後成さしぬぐみか往は不義ハハ奴家於
 十一葉よぐあそいづ父源をまうら新なりし
 道は御所をわさるささる右大臣の装束を厚
 衣父と成害し退し曲者そとさえ母と妹共
 引さるる十二の春より金沢而縁長老よまはへ
 去る今年とあうりさ女さうも父の仇への果
 天衣裁うすとゆめと母妹まらうららむ教と
 付んと金沢の鍬成抜出さるると雪うりも藤

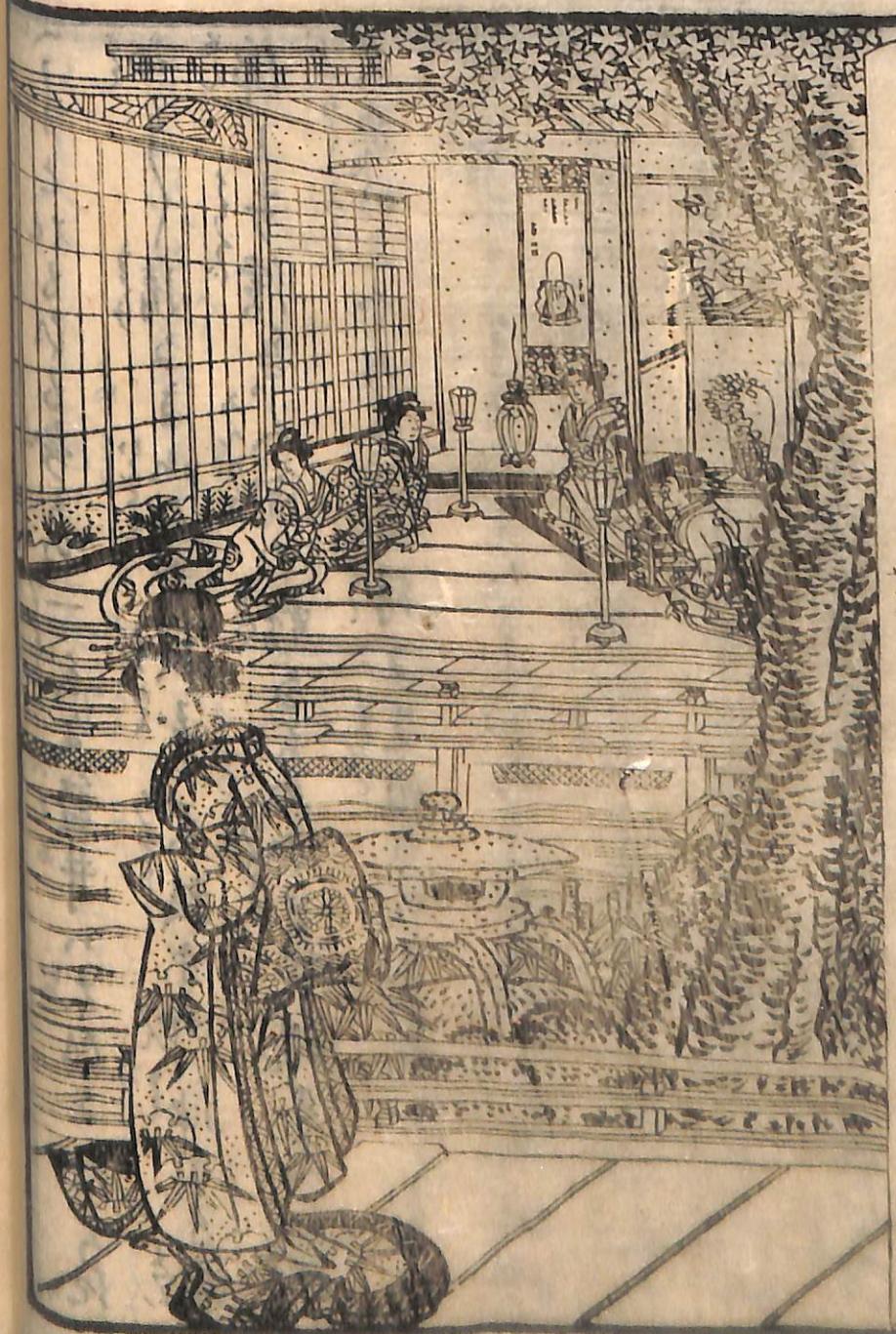
して一味かたらひ天子を殺すに及んでい係れ
 るとんとし、妻をさあなすふ系東國はあつらふ
 系東と望之望源をまを害し退しとやきて
 け曲者も天下に至じ族さらんことをまを落との
 系東は持するものこそねこの親の敵系望の敵
 なまは系付て仇と報どべし左われ女の身も
 敵と付ふ及むに今而夫婦とするといはるる都に
 付なひ禁裏へ奉ふとせ系悲びぬとき案内し
 たまはべし、時を女師とみて供は菜苑と斗

べしとれもひも考らぬ一ふよ盤井は太ひよおどろに
 おもく情なきゆんや我も天照す御神より連
 綿とち續き人間の程さらぬゆ方殺さんと斗
 大悪はとやあるべき時よ先祖の時をりくまん
 神國おて生きたやふしあやどや今我國は
 折るとは國と切を一國のまとならんとの内企へ
 あるべき事なごらん天子ふならんとの内志は折門に
 本例しなき内企やのさらどしけ事し思ひ止り
 たまはまをと後さごうかきは後ならしむる業に折



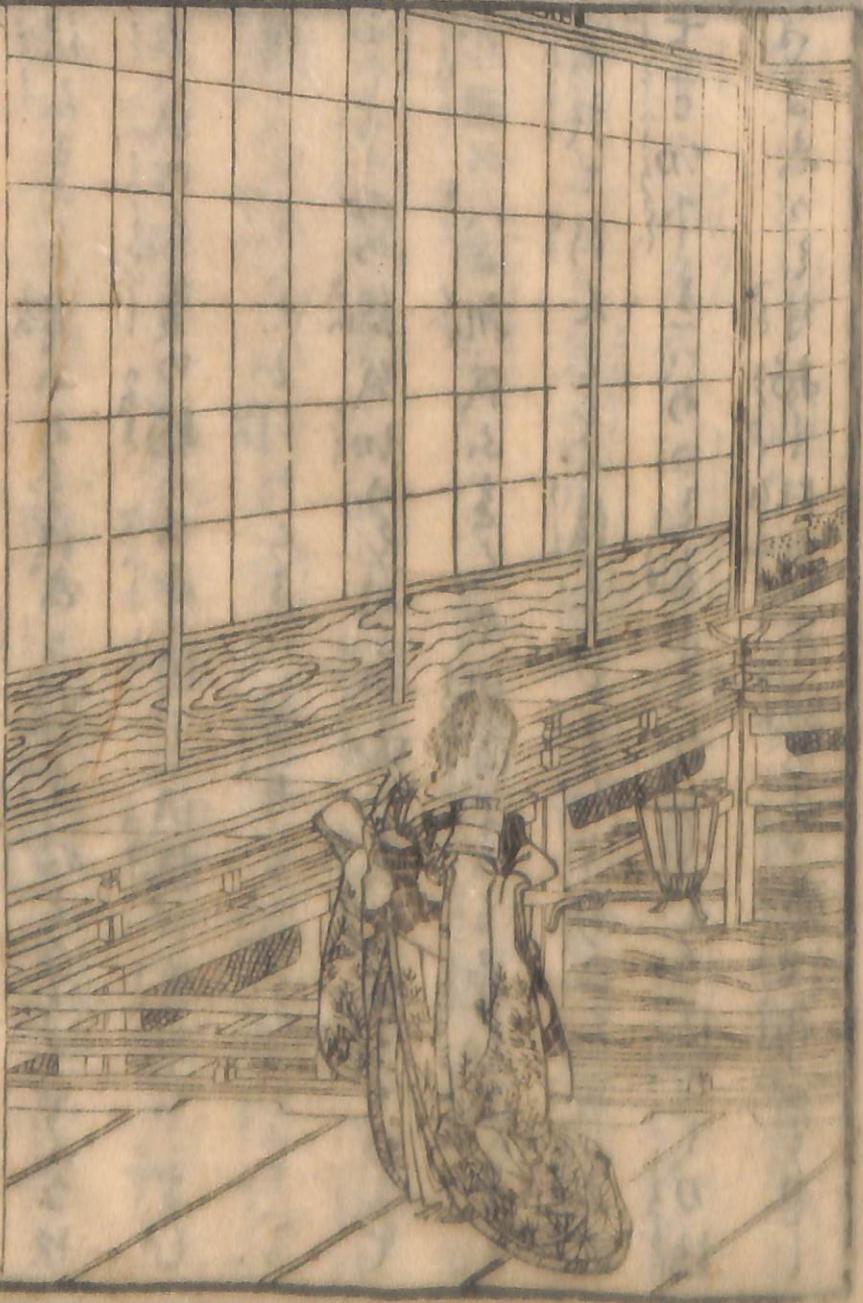
百縁長者金澤郎中深殿之圖

發端



佐保川舟遊

繡像



ころらひは女かく倭魂の志と述べたまど。千石りよと
 けんととどき者おあふげまうればまめとまりてせんた
 事。はに花菱の鞆の只今返し。け揃の天下を聖む
 婦人よまへんと引たらまの盤井もあふりまてい
 おもまめの縁成切のそれ家臣のまん成もていこ
 外國の人よ狐成ふま人や。け方よりも聖むおうと。
 玄持てけんともる後より。おひいけなく。肩先六
 七寸切下まがめつとまどりなぐりより返つて刀持
 子よまがと付おは奥未煉のまの藤に命をまひし

付おまも事の眼のしとよ父の仇母味おもて死
 事の子念とよ海は眼と竹園まも付保ひ時まで
 屋ぶとこと。容窠たる海に引後とも思し。と声も
 小て。まの藤に命とまるとと白眼のまの藤に命あ笑
 天子よ押さらんとありまの藤に命の眼と竹程れ
 事のらん一たより成明し。他人とあつてハ衣が藤
 らまどす。たしき差量なまども。大臣ハ智がとし
 海い。やどおろとも眼べし。夏用装の容程も思ん
 二刀もどし。まのし。一刀を下せば表まひべし。盤井。

二のふりて記はるる見まん南打の一敷ん全
 以言石塚長老の真の事佐保川市前の森下
 路里馬里西人といふ花よ依るが志んて一盤井
 其の故よりて明よを佐保川市前の田んぼ
 平よ路里馬里といふ盤井が地たるに也一平字
 くの記也よと作し馬里此も盤井とあり記
 まじりかゝるに是なり平く眼を定一たるに
 路里徳ともゆらるにせは例に付眼をひくは
 玉のていずる家のていずる地をていずる路里馬里

わたしはしるる河の湯之湯本に春口から
 やうしに之湯を扱ひ置してあつたといふ佐保
 川市前の路里馬里も何れか一公儀にけし
 實より盤井しつとふ城は之地を認る一も夏
 又佐保の地水拾とて平平所ふて如かとも
 のまよ出會徳他の年の櫛を親より解行出地
 一も同世をて在る合ひしに以て人の後
 人よ勿射さくも天子公殺一も國を為る國
 の下ふさる人といふ家と禁裏へ入也るにせよ

難^{えん}言^{ごん}よ^ごお^ん國^{こく}ハ天^{あめ}照^{てう}と^と市^{いち}神^{じん}ら^ら天^{てん}子^しの^の智^ちら^らせ^せた
 ま^まい^いぬ^ぬ神^{じん}國^{こく}な^なま^まび^びね^ねも^もい^いと^とま^まり^りた^たま^まくと^と何^{なに}と^とし^し
 條^{じょう}め^めー^ー成^{せい}守^{しゅ}入^{いれ}ず^ず今^{いま}より^{より}難^{なん}縁^{えん}の^の下^{した}ー^ーま^まり^りと^とに^に
 花^{はな}菱^{あざ}の^の目^め貫^{くわん}返^{えん}ー^ー丁^{ちやう}子^し車^{くるま}の^の後^{あと}附^つー^ー有^あ縁^{えん}の^の
 櫛^{くし}成^{せい}ま^まり^りー^ー扱^あも^も一^{いち}ち^ちろ^ろと^とめ^めせ^せー^ー女^にと^と後^{あと}より^{より}
 切^き付^つら^らま^まさ^さま^まく^く眼^{まなこ}成^{せい}り^りと^とい^いへ^へども^{ども}尋^{たづ}ね^ねの^の如^{ごと}く
 終^{つひ}一^{ひと}二^{ふた}の^の太^お刀^{やいば}と^とあ^あえ^えぬ^ぬく^くら^らし^しと^とお^おも^もひ^ひし^しの^の菱^{あざ}
 お^おや^やと^と扱^あも^もー^ーま^ま成^{せい}ひ^ひし^しけ^けば^ば花^{はな}菱^{あざ}の^の目^め貫^{くわん}一^{ひと}對^{たい}出^{しゅ}
 たり^{たり}と^とえ^える^るら^らし^し盤^{ばん}井^い再^{また}な^なむ^む作^{つく}天^{てん}し^しの^の菱^{あざ}中^{ちゆう}に^に

返^{かへ}し^しは^は目^め貫^{くわん}の^の子^こま^ま結^{むす}る^るに^に不^ふ思^し成^{せい}と^と此^{こゝ}と^と撰^{せん}り^り只^{ただ}今^{いま}
 ま^まが^がさ^さし^して^てあ^あら^らし^し櫛^{くし}の^のあ^あら^らざ^ざる^るに^にお^おの^の菱^{あざ}お^おて^てい^いさ^さ
 一^{ひと}く^くと^と再^{また}び^び漂^{たふ}と^とし^して^て私^{わが}之^の土^{つち}の^の如^{ごと}く^くら^らし^しと^とあ^あ
 佐^さ保^ぼ川^{がわ}市^{いち}筋^{すぢ}笑^{わら}は^はせ^せ玉^{たま}ひ^ひか^かお^おら^らざ^ざし^し恐^{おそ}ろ^ろ事^{こと}成^{せい}
 か^かま^まま^まま^まに^に五^ご菱^{あざ}あ^あり^り実^{まこと}菱^{あざ}、^の心^{こゝろ}菱^{あざ}、^の病^{やまひ}菱^{あざ}、^の虚^{うつろひ}菱^{あざ}
 と^とて^て神^{じん}佛^{ぶつ}と^と行^いて^て冥^{よみ}強^{かぢ}の^の是^{こゝ}と^と冥^{よみ}菱^{あざ}と^とい^いひ^ひの^の菱^{あざ}に^に見^み
 一^{ひと}りの^の傍^{そば}あ^ある^る是^{こゝ}に^に冥^{よみ}菱^{あざ}と^とい^いひ^ひの^の心^{こゝろ}よ^よら^らし^し入^い事^{こと}成^{せい}
 菱^{あざ}お^おろ^ろの^の是^{こゝ}と^と心^{こゝろ}菱^{あざ}と^とい^いひ^ひの^の心^{こゝろ}に^に神^{じん}ま^まと^と来^きて^てま^ま
 一^{ひと}りの^の病^{やまひ}と^とい^いひ^ひの^の病^{やまひ}と^とい^いひ^ひ又^{また}あ^あら^らぬ^ぬ菱^{あざ}と^とい^いひ^ひの^の菱^{あざ}と^とい^いひ^ひ

皆を虚夏より只今汝へし夏に実夏を
 めて其人のよは搦はるべし、志ろし能く恨べしと
 悟りもよき言とと佐保川所居の博識と感し
 目後花水橋の遊戯小平塚守藤元昂、育は世に
 来りてこそぞ時雨とほりくまは幸の辻堂ごさんぬ
 まと狐括子とりりき内に入。雨は後ぎらにおやと
 形きぬも人よぬく石比菟の膝と枕と一伏けるお
 くさかけの夢は眼代是しおく不思議の夏を見
 たるものうまと四りぬえと彼丁子車の換金せし

搦はえつ愕然とふどりきこては夏中よよ小かけし
 盤井が搦いってけ所小あやと此と果てあうをら
 夏中といひひなごに花夏の猶はあてやと搦て
 いふ経るまきまつりバ目貫も盤井がよ小くらし
 おらん夏中といふりの一大車ぬめせし女生徒
 ハ大屋の坊いふ小もしく、教をきん易く係取せんと
 そまよりの盤井ぬねらひる。搦目貫の事後小兄一
 守り。

○ 第十二節

佐保川所居伊勢守
 老狐盤井成斗る

奥泊りかゝい石橋山の罍酒香川の敷るとさめく
 りに成りて一餐急ぐりふおもいず五六日成るる。おぼほ
 系々たるそり要なると。出立のとき。難し助路にも
 と泊り。風系と見送り。かゝるまより。逢の海山成
 我神風や伊勢日念ぬ。比原幸福をまほ客来原
 形り。代、神系成奏しけり。二兄おまの朝態。さうく
 答へ。一々が佐保川所前。後迎を神宮より。鶯鳴石成
 元人と立止。たまへ。内供の女中。成成。暁と着飾。分て
 盤井。路里。富里。が答。と。終。お。も。あ。る。ま。し。く。も。ま。は。し。の

舞集。そ。が。乃。よ。魏。成。成。し。お。も。い。す。け。人。小。付。て。後。迎
 を。神。宮。へ。系。信。と。る。人。も。多。う。り。多。く。折。け。後。迎。を。神。宮。
 と。中。内。より。行。程。三。里。成。隔。て。い。と。也。な。る。所。社。
 小。大。神。宮。の。由。來。の。書。に。出。た。ま。は。是。と。畧。す。佐。保
 川。所。前。の。と。久。う。り。成。成。し。い。と。有。難。く。ぬ。り。成。さ。り。ぬ。
 史。より。後。迎。村。へ。ゆ。り。二。丁。も。形。よ。小。山。あり。け。布。よ
 鶯。鳴。石。と。て。表。代。の。名。石。あり。五。回。身。原。風。成。立。たる
 と。さ。石。あり。て。其。石。へ。歌。成。成。く。う。け。り。て。神。又。後。妙。の
 史。事。より。そ。個。上。下。い。を。丁。ご。り。下。に。小。屋。と。表。う。り。ぬ。

けふもとて三法被り筆なとと深よどの石へうつりて其
 音声妙くまゝ佐保川内流ハ歩けりもけり鶴石へまゝ
 たまへいゝ魚て内原幸福をまゝも幕少と一政某も酒
 と出し。新府更しく〜養魚りんけり鶴石ハ遠川
 圃へも寄えし一名石もまゝいゝしとどもかりる〜に
 笠後ぶ〜と仰るもありの義をまぶ〜或ハ種ハ根が
 かぞ〜とぞるなどがまびと〜さるふ〜と〜と〜と
 石小梅りて面白と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 興よ入たまひて。盤井坂石て海ハ幼年〜と〜と〜と

けて第一三のを井の曲ハ〜と〜と〜と〜と〜と
 流れて〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 流水も〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 一の〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 三曲〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 盤井も〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 小月不のめさ。寂寞と〜と〜と〜と〜と〜と
 鶴石の所へ来て〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と



富里投多の下段も人もあらず。只衆の曲の事にして
 人の氣文はあらず。まは作天して只今争の終る時
 まうでい巻もふ人の事えし。奴家一人は跡し。行方
 新うしやと。心も果くれ。さあもう自派し。婢女跡
 か。盤井小向ひ。心身必くたどるきたま。ま。佐保川
 活あ。一時も先はあつたまのけ。あ。一人一人もあ。は。
 か。く。あ。も。人。男。に。あ。ら。は。を。抗。ま。り。と。り。あ。は。盤。井。の
 顔。動。して。是。い。活。る。し。や。抗。理。の。た。ら。ま。さ。ら。づ。ら。さ。れ。し
 には。一。さ。よ。と。あ。と。も。い。は。ば。禁。の。方。へ。下。る。後。と。い。え

妙とて程曲悉く傳授せり。は。野。鶴。石。の。あ。り。と。二。曲
 佐保世よとあり。ま。は。盤。井。貞。女。赤。や。う。ま。は。ぬ。家
 知。少。し。君。の。心。例。は。あ。り。て。あ。り。と。り。琴。の。曲。と。琴
 けて。さ。う。ら。ん。ど。も。中。々。の。際。ま。し。た。あ。り。て。保。中
 へ。ま。や。と。舞。退。と。る。に。佐。保。川。の。赤。女。の。あ。り。ま。い。や
 舞。の。二。曲。の。因。り。けて。を。井。の。秘。曲。は。若。清。恩。原。天。皇
 吉。世。の。真。し。は。曲。は。源。一。と。い。は。天。人。天。下。ま。て。
 五。反。舞。は。舞。一。由。其。曲。は。を。井。の。曲。と。琴
 今。も。五。節。の。舞。大。内。に。あ。り。と。り。や。海。身。は。さ。よ。め

秘曲と石面は面むべしと宣へば盤井今ハ輝るの
 向さく。傍の志回より流き出る清み小敷きんと清め
 筆紙互号。彼筆と深どころへ下里も一人供も
 集りたる。佐深川山前路里。富里も。再紙とる由して
 たましよ。浮出す妙音石面は移りて。又妙たくとへ
 あしと。んまを下級まで解るが如く。魂と集はま一曲の
 妙音ととす入る。既よ一曲終りたれば各醒るが如く
 まこと今一曲ハ捨らぬ。梢の輝も音紙止り。草
 葉よとてく虫も音紙入る。音入るぞ不思議なる。

かくあいたくく河面ハ移りて。や。おまるとんと移て
 ごとくとすたまへ。山身は交伊留系。又紙したまると
 金紙よ。いさ。半ハつたす。天照太神は。よ。あ
 と。感して。佐保川山前。は。健。して。は。不。へ。音。紙。入。る。は。雅。音
 事。小。あ。り。ど。や。ま。ま。こ。山。身。の。筆。の。曲。の。終。妙。う。り。や。こ。の
 四。り。ま。で。も。や。え。三。曲。の。秘。曲。紙。傳。人。と。音。生。と。い。へ。と。も。
 琴。の。紙。彈。む。る。も。の。二。こ。孝。子。ん。ん。是。等。の。者。ど。と。合。せ。て。
 山。身。と。は。不。よ。笛。や。一。疋。の。を。狐。ハ。山。身。の。姿。よ。變。し。は。紙
 佐保川山前。小。ま。と。ど。の。所。所。の。方。へ。き。い。り。り。是。と。

も西身の買取まゐる保るまゝのさうす保とたすぬ
 只今没したまふ保由とけこよ留またまは長
 三曲の傳の伊勢小おるべし。是まの西身のいととし
 ねまの保末と守るべし。是まも夏中一のまゝ
 親の敵と討んと金沢の館に接出するまゝとや
 今は時節こそ西身の仇と守るべし。是まも
 金沢の館は帰らず。是まもつゝ敵は討たまふ。金沢
 へりともる。是まも西身の仇と守るべし。是まも
 たまひんは事と若しも。三曲は傳授したまふ。是まも

うまの保の買取まゐる保るまゝのさうす保とたすぬ
 一まの盤井の志づくく物をもいとまゝありたる保
 ありい合とるよ。是まも藤田郎一大事な夏中よ。是
 是まも金沢の辺に備へておらひんも身がさし
 今に保の買取のつゝ。父の仇は報いんと。是まも
 信長中おぬけ出し。是まも夏中よ。是まも
 諸國のりぐり。右大臣の表本と持し。若しを親の敵
 ねまの保末よ。是まも夏中よ。是まも
 もの。是まも保の買取まゐる保るまゝのさうす保とたすぬ

立出るよ一人のまこと男は行合らりい人も服
 秀鼻高く美玉のてく脊高く威あつてまも
 純小して威風凛しくたる男は是名しりあ山
 七三帝利貫といつる人なりえ来河田の國土師の里
 菅原の一統ありしが肩袂の袈裟進ひ角かばこのま
 三教よけ人小并ぶ力者もあらずえより仁義の雷士
 ふて日幸の恵庭さると天契す御神は信るよ相の
 山よて盤井とていぬく初合し盤井が容もせし
 たぐのちらとまの武家のまのまももまもまもまもまも

美人もあるりのり婦事と世人のゆる人ならてあま
 志とえ送もば盤井も其人のいと清らうふあもあ
 のと情めりさるふまづもさてく旅男のまももまも
 てえとまももまももまももまももまももまももまもも



報仇四季物語後編卷之一終

